

『この決算書、何か変だぞ?』・・・一見正しそうな数値に潜む不正・ミスを見逃さないためにどうしたらいいのか

決算書類の『おかしな数字』の見抜き方テクニック【基本編】+【不正会計編】

～ 基本編と不正会計編の2つのセッションで分かりやすく学びます ～

【開催要領】

※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせて頂く場合がございます。

日時▶ 2019年 10月 31日(木) 10:00～17:00

会場▶ 企業研究会セミナールーム(東京・麹町)

＜講師＞ (株)ヴェリタス・アカウンティング 代表取締役社長・公認会計士
山岡 信一郎 氏

【講師略歴】1993年3月慶應義塾大学経済学部卒業。1994年10月公認会計士第2次試験合格 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所。国内監査グループに所属。主に東証一部上場企業の監査に従事。東証一部上場企業では、大手メーカー、システム開発会社、技術者派遣会社等の現場主任として法定監査を行う。日本公認会計士協会実務補習所(現一般財団法人会計教育研修機構実務補習所)実務補習所委員として、補習所クラス担任に3年間従事するとともに、実務補習所の講師も担当する。2007年10月 監査法人トーマツ退所後、株式会社ヴェリタス・アカウンティング設立、代表取締役社長就任、弁護士との父とともに山岡法律会計事務所設立、パートナーとして就任。現在に至る。内部統制報告制度やIFRS(国際財務報告基準)についてのコンサルティング業務が中心となっている。また、上場会社の社外監査役、会計顧問も務めている。

＜受講者特典:セミナー当日、講師著『新訂版おかしな数字をパッと見抜く会計術』(清文社)をサブテキストとして配付します。＞

【申込方法】 当会ホームページ (<https://www.bri.or.jp>) からお申し込み下さい。

企業研究会Q 検索

■受講料: 1名(税込・昼食代含) ※申込書をFAXでご送信いただく際は、ご使用のFAX機の使用法(0発信の有無など)をご確認の上、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

正会員	38,500円(本体価格 35,000円)	一般	41,800円(本体価格 38,000円)
-----	-----------------------	----	-----------------------

191602-0206 企業法務プロフェッショナル養成講座【基本編】+【不正会計編】			
ふりがな 会社名			
住所			
TEL	FAX		
ふりがな ご氏名	所 属 職		
E-mail			

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■申込・参加要領 : 当会ホームページからお申込みください。FAX、または下記担当宛E-mailからもお申込み頂けます。

後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問(FAQ)は当会HPにてご確認くださいませ。(「セミナー・会員研究会」→「よくあるご質問」)

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 セミナー事業グループ 担当/民秋 E-mail:tamiaki@bri.or.jp
TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 MFPR 麹町ビル2F

・プログラム・

【開催にあたって】

決算書、帳簿、管理資料といった決算に関係する書類上に発生する「おかしな数字」を見抜くコツを身につける「決算書類の『おかしな数字』の見抜き方テクニック」の基本編に、新たに「不正会計」発見の重点ポイントを盛り込んだプログラムとなります。重要資料のミスや不正の発見、不正会計防止の体制強化のためのヒントを探っていきます。尚、サブテキストとして、講師著書『新訂版おかしな数字をパッと見抜く会計術』(清文社)を当日配付します。

- 「おかしな数字」を見抜くための心構え
 - 「おかしな数字」とは何か
 - 「おかしな数字」が発生するリスクを把握する
 - 「おかしな数字」と内部統制との関係
 - 決算の流れと粉飾(どこから「ウソ」は始まっているのか?)
- 「おかしな数字」を見抜くための分析手法
 - 基本は数値比較
 - 簡単な財務指標を使って前期比較する
 - 予算実績比較のポイント
 - 月次推移比較のポイント
 - 勘定科目・数値そのものから見抜く
- 主要な勘定科目別の「おかしな数字」の見抜き方(ケーススタディ)
 - 現金、預金、有価証券・投資有価証券、売掛金、棚卸資産、有形・無形固定資産、買掛金、引当金、等の「おかしな数字」事例を扱ったケーススタディ
- 不正会計発見に重点をおいた「おかしな数字」の見抜き方
 - 「おかしな数字」の中でも「不正」に重点をおいた見抜き方のポイント1.5
 - 不正会計のパターンを知り、「数字」だけではなく、「人」や「管理」の面から、状況を総合的に把握する
(ポイント例) その取引先との取引理由は何か
モノ・サービスの対価は妥当か
資産は買った値段のままでよいか
貸付金の目的は何か ほかに
- 決算書の「おかしな数字」の見抜き方(ケーススタディ)
 - 不正会計が行われた会社の決算書の「おかしな数字」事例を扱ったケーススタディ

※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで
2種類のセミナーをご案内しております。